

研究活動 I

野田 悟

著書, 学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又 は発表 の年月	発行所, 発表雑誌又 は発表学会等の名称	概 要	編者・著者名 (共著の場合 のみ記入)	該当頁数
(著書)						
(学術論文)						
二十世紀金石書画家—韓登安 (1905—1976) 研究	単	2005・6	中国美術学院 修士論文	当年は丁度、韓登安生誕100周年に当 たり、韓氏は西泠印社に対して、卓越し た貢献をしており、また現代篆刻史上に おける代表的人物の一人である。二十世 紀60年代、西泠印社の復活活動におい 中心的に動き回り、現在の天下第一名社 にまで押し上げた。また彼の書画篆刻に おける造詣は非常に深く、今でも韓氏を 慕う弟子は多く彼らは現在の中国篆刻界 を支えている。韓登安研究の主な研究の 見出しは以下のとおり。 1、緒論 2、韓登安的生平事跡 3、韓 登安の書畫及詩文藝術 4、韓登安の篆 刻藝術 5、年譜 6、結論		202
韓登安の篆刻藝術	単	2005・8	『西泠印社』誌 (浙江省杭州市)	これは修士論文の一部を修正を加えて 掲載したもので、韓登安は西泠印社100 年を越える歴史の中で唯一の総幹事を務 めた人である。その貢献度と書画篆刻の 実力は社の中では他を寄せ付けない実力 を持ちながらも、病弱な体質と中国国内 の政治の影響により、表舞台に出れない 所が今でも影響している。そこで一人の 外国人からの観点から、特に彼の篆刻芸 術に焦点を置き、4つの変遷期を分析し、 また韓氏が当時使用していた工具につい て考察した内容を論じている。		9
韓登安年譜	単	2005・8	『西泠印社』誌 (浙江省杭州市)	本編は修士論文の第5章の部分をページ数 の関係により、『録』、『文献資料引證』 を削除して記載した。西泠印社にも記 されていないものも多く執筆している。		8
吾衍與其《學古編》之研究	単	2009・5	中国美術学院 博士論文	篆刻芸術の出現、発展、繁栄はすべてそ れらの時代と切り離すことはできない。 またそれらの時代の政治、経済、文化の 環境は密接な関係があり、他の学術との 結びつきは紀っても切り離すことはでき ない。この『學古編』は現代初めの著名 な学者吾衍によって書かれた中国古代の 印学理論基礎を築いた著作である。しか しながらこれらの方面の文献記載は非常 に少なく、これまでのいくらかの定説を 覆した博士論文となった。見出しは以 下のとおり。 1、緒論 2、吾衍與其家世 3、藝術 與交友 4、《學古編》版本考察 5、結 語。		221
《學古編》版本考評	単	2010・5	『美苑』魯迅美術學 院學報 (遼寧省瀋陽市)	これは自身の博士論文の第4章の部分を ページ数の関係上、16000余字を7000 余字にまで削り、修正を加え掲載した。 1、近現代研究綜述 2、《學古編》版本 概述 3、《學古編》版本源流考の順に て執筆している。		
(その他)						
翻訳 (日本語→中国語)	共	2006・12	『西泠印社』誌	菽氏はこれまで「高貞碑」に関しての	主: 野田悟	7

萩信雄(安田女子大学教授) 『高貞碑拓本笱記』		(浙江省杭州市)	9編の執筆を行っておられ、また当時において最旧拓といわれる資料の写真版を手され、中国戸籍などの資料と比較し、出土年月等、これまでの研究の間違いに気付き、またそれぞれの時代別の拓本の違について、詳しく自論を述べておられる。	副：郭超英 (西泠印社理事)
----------------------------	--	----------	--	-------------------

研究活動Ⅱ  
野田 悟

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又 は発表 の年月	発行所、発 表雑誌又 は発表学会 等の名称	概 要	編者・著者 名（共著の 場合のみ記 入）	該当頁数
(その他)						
書道作品		2007・9	中国中央電視台 『同樂五洲』	楷書「北國之春」 最高創作賞受賞(255×82)		
篆刻作品		2007・12	『夢行浙江—留學生作品 展』	「西泠留痕」(計50顆・135×35×4) 一等賞受賞		
書道作品		2008・8	『四海藝同—中国美術 学院作品展』	行草「飲中八仙歌」(138×70×6屏風) 二等賞受賞		
書道作品		2010・6	青葉祭り	大篆「老馬知」(『韓非子・説林上』69× 35)		
書道作品		2011・2	高野山大学学外書道展	小篆「白樂天答客問杭州詩」(138×70)		
書道作品		2011・2	高野山大学学外書道展	甲骨文「燕子來春社 梨花落清明」(138× 32×2)		
篆刻作品		2011・2	高野山大学学外書道展	冊頁『野田悟印存』(計35顆)		23
書道作品		2011・6	青葉祭り	隸書「四季賛歌」(68, 5×35)		
(その他)						



所属	高野山大学	職名	助教	氏名	野田 悟	大学院の授業担当の有無 ( 無 )
教育上の主な業績		年月日		概 要		
1. 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		2011年前期		<p>1、書道実技において、「眼高手低、手高眼低」の書法哲学のもと、まず法帖を見ながら目の鍛錬を行い、2つ以上の法帖を比較分析、実践を通じて書風の特徴及びその時代背景を理解する。また形臨、背臨を経て創作までの過程を理解する。</p> <p>2、古文字学の一番中心となる『説文解字』の講読を行い、その字源についての学生個々の解釈に基づき、意見を述べてもらう。日常的に使用する漢字において歴史的な視野に基づき、その後の研究の糧になることを必要とする。</p>		
2. 作成した教科書、 教材、参考書						
3. 教育方法・教育実践 に関する発表、講演等						
4. その他教育活動上 特記すべき事項		2011・3 (平成23年度)  自 2 0 0 3・3 至 2 0 1 0・3		<p>大阪府池田市一乗院にて「中国留学における中国仏教と古代文字について」の法話。</p> <p>浙江省杭州市の杭州朝日外国語専修学校にて副校長として日本語教育を行い、1級合格者200余名を数える。 (現在は顧問に就任)</p>		